

令和3年度 第2回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ: 県内産業の高付加価値化を目指して

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、若手起業家や地場産業に携わる若手事業者の皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和3年12月14日(火) 午後1時30分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 若手起業家や地場産業に携わる若手事業者 10名

(主な意見等)

- 織物では海外展開やハタオリフェスティバルなど事業者による活動を行っているが、山梨全体としてのブランドをしっかりと確立して全体で取り組めることができればと思う。
- 宝飾業は卸売りではない直接顧客への販売の部分で課題がある。業界として、観光客が安心して手にとってもらう環境や富裕層向けの海外展開が重要である。
- 産地の知名度を上げることでワインの価値とともにその原材料の醸造用ブドウの単価も上げられたらと思う。また、顧客に期待を大きく上回る価値を提供することを心がけている。
- 山梨は首都東京から近いうえに酒類や果物なども豊かであるという唯一の場所である。日本酒もその入り口の一つとなればと思う。
- 印章業界はこれまで様々な取組を行ってきたが、現在はふるさと納税の品目としてもらったり、修学旅行の体験教室に組み込んでもらったりして知名度向上に努めている。
- スポンサーに頼らない自立したプロスポーツチームをつくり、地域におけるハブ機能を担えるような組織を目指していきたい。官民共同のプロジェクトが出来ればと思う。
- 自然公園内は教育の場としての位置づけのみで、投資が十分されていないため高付加価値化が出しづらい。ポテンシャルがあるので、投資するなど磨き上げが必要である。
- ストリートダンスにはファッション性が求められるが専門のシューズがなく、その開発に取り組んでいる。ストリートダンスを含めたストリート文化の活性化が重要ではないか。
- 富裕層のツアーが山梨に滞在してもらう工夫が必要である。また不便な場所であることを逆手にとって魅力として売りにしていくが、一方で人材確保が大きな悩みである。
- 投資の財源を生み出すために、地域のお金を地域内に還元する仕組みが必要である。また起業相談、支援の場としてインキュベーションセンターは有効だと思う。

(知事(県)の主な発言)

- 山梨のいいところを一つ一つ活かしていき、「やまなし最近おもしろい」と言われるように、今回が皆さんと課題を共有する第1歩の場としたいと思う。
- 観光客などにわかりやすくするためには、施設集約などをして示す必要があると感じた。様々な業態に関わるような形で、例えば「美食県」などを目指せば面白い。
- 多岐にわたる内容であったが、何か新しいものが生み出せる予感があった。今後も問題意識を共有し継続的に意見交換ができればと考える。

